

20日投票の参院選では、外国人施策が争点に浮上した。国内では技能実習や特定技能の外国人が活躍したり、多様なルーツを持つ子どもたちの学習をサポートしたりするなど支え合いは進む。選挙戦では分断を生む言説が広がり、戸惑う当事者は「共生の現状を知ってほしい」と訴える。

「かすれるところがないように塗ります。ちゃんとできるとうれしいです」。

16日午前、津市の民家で、特定技能の在留資格で働くカンボジア出身のポット・ソチアットさん(22)が手際よくはけを動かした。

同市の塗装会社「日建建」では5年前から外国人人材を受け入れ、社員半数となる4人が在籍。朝倉達也社長(52)は「お父さん」と慕われ、生活支援や母国への家庭訪問で関係を築いてきた。現地では豊かな人の催しという誕生日会は好評で、涙して喜ぶポットさんの動画は交流サイト(SNS)で反響を呼んだ。

受け入れのきっかけは、建設業界の人手不足だ。日本の若者が集まらず朝倉さんは「絶対に必要」と断言する。参院選では労働者の受け入れ制限の主張も上がるが、大きな現場では3分の1が外国人というところも珍しくないという。

「外国人が塗っているの

争点に浮上した外国人施策

「共生の現状を知って」 分断に戸惑う当事者



真剣なまなで塗装作業をするカンボジア出身のポット・ソチアットさん。16日、津市

か」と心ない言葉を発する。「悲しい。私たちが頑張っているから分かっているから分かってほしい」。

「この人たちがいるから社会が悪い」という論法には終わりがけない」

い。仕事へのひたむきな姿勢など、ポットさんからは学ぶことは多いと朝倉さんは感じる。「ものづくりには人種は関係ない。この子らはうちの顔と胸を張る。大阪市生野区の開校した小学校の一案では16日夜、英語や中国語が飛び交った。小生主から高校生までの15人ほどがテキストを広げ、日本語や世界史、数学などを個別指導の形式で学んでいた。

「子どもたちの学ぶ権利を保障することを大切にしてきた」。NPO法人「IKUNO・多文化ふらつ」で、ここでもみらい事業主任を務める金和水さん(35)が強調する。教室には中国やネパール、ベトナム、韓国、フィリピンなどにルーツをもつ約90人が通い、教える講師には日本人だけでなく、留学生も。さまざまな背景の人たちが集い「学習のためだけでなく、子どもたちの居場所にもなっている」。

在日コリアンの金さんは選挙戦に、家族や友人が迫害されるのではないかとこの人たちがいるから社会が悪いという論法には終わりがけない。仮に外国人がいなくなっても、他のマイノリティーが悪者にされる。多くの外国人が暮らす現実を受け止めてほしいとし「支援の現場から何かを感じ取ってくれたらうれしい」と願った。